

# 強者の戦略

2026 年度 京大英語 IV〔問題編〕

今回は 2026 年度に京都大学で出題された自由英作文の問題を題材とし、生徒の答案に対する紙面上での添削を行います。読者のみなさんも一度自分の答案を作成した上でご覧いただくと、より一層理解が深まるかと思います。(解答時間の目安は 15 分)

## IV 自由英作文

In English, write a paragraph explaining one thing that could be done to make the world a better place to live in. Begin with a statement summarizing your main argument, followed by supporting points, and conclude with a final sentence.

1. 語数は 80 語以上 100 語以内とすること。
2. 解答欄の各下線部分の上に単語 1 語を記入すること。カンマ (,) 等の記号は、その直前の語と同じ下線に含めることとし、1 語と数えない。短縮形 (例: don't) は 1 語と数える。

# 強者の戦略

2026年度 京大英語 IV [解答解説編]

## 【解答例】

One effective way to make the world a better place to live in is to increase opportunities for cross-cultural communication. When people communicate with those from different backgrounds, they can understand different perspectives and reduce prejudice. For example, more chances to interact with people abroad through online exchanges and international programs can make such communication more accessible. These experiences help individuals recognize both differences and shared values. As a result, greater mutual understanding will promote cooperation across countries and contribute to a more peaceful world. (86 words)

世界をより良い場所にするための効果的な方法の一つは、異文化間のコミュニケーションの機会を増やすことである。人々が異なる背景をもつ人々とコミュニケーションを取ると、異なる視点を理解し、偏見を減らすことができる。例えば、オンラインでの交流や国際的なプログラムを通じて海外の人々と関わる機会が増えれば、そのようなコミュニケーションはより容易に行えるようになる。これらの経験は、人々が違いと共通の価値の両方を認識するのに役立つ。その結果として、より深い相互理解は国を越えた協力を促進し、より平和な世界に貢献することになる。

## 【解説】

まず、設問の要求を正確に把握することが重要である。テーマは“one thing that could be done to make the world a better place to live in”であり、「世界をより良くするために何をすべきか」を一つに絞って論じる必要がある。したがって、環境問題・教育・貧困・戦争など複数の話題に広げるのではなく、一つの施策を軸に据え、その効果を論理的に説明することが求められる。

また、設問では“Begin with a statement summarizing your main argument, followed by supporting points, and conclude with a final sentence.”と指示されているため、構成も明確でなければならない。具体的には、「主張 → 理由・具体例 → 結論」という流れを意識する必要がある。特に、「何を言いたいのか」が冒頭で明確になっていない答案は評価されにくい。そのため、1文目では“One effective way to make the world a better place...”のように、自分の主張を端的に提示するのが望ましい。

今回の模範解答では、「異文化間コミュニケーションの機会を増やすこと」を主張として

# 強者の戦略

いる。ここで重要なのは、単に“communication is important”のような抽象論に終始しないことである。設問は「何をすべきか」を問うているため、「機会を増やす」という具体的な行動まで書く必要がある。また、**supporting points** の部分では、「なぜそれが世界を良くするのか」を論理的につなげなければならない。例えば、2 文目 (When people communicate with those from different backgrounds, they can understand different perspectives and reduce prejudice.) では、「異なる背景を持つ人々と交流する」→「異なる視点を理解できる」→「偏見が減る」という因果関係が示されている。このように「原因→結果」を意識して書くことで、論理が伝わりやすくなる。

さらに、具体化も欠かせない。例えば、**People should communicate more with each other.** だけでは、「具体的に何をするのか」が見えず、説得力が弱い。そこで模範解答では、“**through online exchanges and international programs**”という表現を用いている。つまり、「何をすべきか」→「異文化交流の機会を増やす」→「例えば、オンライン交流や国際プログラム」という形で、主張を自然に具体化しているのである。このように、自由英作文では、「抽象論だけで終わらせず、主張・根拠の具体性を高めること」が求められる。

最後の結論部分も重要である。この設問では“**the world**”とあることから、結論も世界規模に回収しなければならない。例えば、「人々が仲良くなる」で終わると、話のスケールが小さくなってしまう。そのため、“**promote cooperation across countries and contribute to a more peaceful world**”のように、「国を越えた協力」「より平和な世界」という形で、冒頭の“**the world**”に対応させる必要がある。

総じて、自由英作文では、「設問の要求に真正面から答えること」「論理を一直線につなぐこと」「抽象論だけで終わらせず、具体性を高めること」が高得点の鍵になる。

# 強者の戦略

## 【生徒の答案への添削】

以下、現役の高3生に作成してもらった答案を掲載する（添削の都合上、各文に番号をつけている）。

### 添削前の答案

①Recycling trash is one of the way to make the world a better place to live in.②First, people could produce things without getting any resources of it. ③It would lead people not to destroy natural environments to get the resource of the product. ④Second, the amount of trash would be decreased, so that there would be less plastic trash in the ocean. ⑤Finally, it would increases people's attention on protecting the environment. ⑥For these reasons, recycling trash would make the world a better place to live in, and also make both humans and wild animals coexists in the earth. (100 words)

①ごみをリサイクルすることは、世界をより住みやすい場所にする方法の一つである。②第一に、人々はその資源を得ることなく物を生産することができるだろう。③それによって、人々はその製品の資源を得るために自然環境を破壊しなくなるだろう。④第二に、ごみの量が減らされ、海の中のプラスチックごみもより少なくなるだろう。⑤最後に、それによって環境保護に対する人々の関心が高まるだろう。⑥これらの理由から、ごみをリサイクルすることは世界をより住みやすい場所にし、人間と野生動物の両方が地球上で共存することにもなるだろう。

この答案は、主張→理由提示→結論という構成が比較的明確であり、英作文としての骨格自体はしっかりしている。First / Second / Finally などを用いて論理展開を整理しようとしている点からも、「どのように文章を組み立てればよいか」をある程度理解した上で書けていることがわかる。一方で、文法・語法面には細かなミスが散見され、さらに内容面でも「論理の接続」や「根拠の具体性」に甘さが残る答案となっている。

まず、①の one of the way は one of the ways に修正する必要がある。“one of the + 可算名詞複数形”で「～のうちの一つ」を表すためである。受験生は動詞ばかりに意識が向きがちだが、実際にはこうした名詞の単複ミスは非常に多い。名詞の可算・不可算や冠詞の使い分けは短期間で習得できる技術ではないが、「自分はできている」と思っている人ほど、こうした初歩的なミスを無意識にしてしまうものである。

また、③の the resource of the product も不自然である。現状だと「その製品の唯一の資源」という意味に近くなってしまっているため、resources for products のように修正したい。“無冠詞 + 可算名詞複数形”にすることで「製品一般を作るための資源」という意味を自然に表すことができる。また、内容的にも「製品の資源」ではなく、「製品を作るための資源」である以上、前置詞は of ではなく for を使うべきである。名詞の単複や冠詞は軽視されやすいが、ここを誤ると、自分が意図した内容とは異なる意味で採点者に伝わっ

# 強者の戦略

てしまう危険がある。

そして④の **the amount of trash would be decreased** は、**the amount of trash would decrease** とする方が自然である。**decrease** には「減少する」という自動詞用法があるため、主語自体が「量」である場合には、受動態にするよりも自動詞として使う方が英語として自然になる。対義語の **increase** にも同じことが言える。

さらに、⑤の **would increases** は、助動詞の後ろには動詞の原形が続くため、**would increase** に修正しなければならない。この種のミスは知識不足というより、「内容を考えながら書くこと」に意識を取られ、文法への注意が弱くなっていることによって起こる場合が多い。また、見直し不足も原因として大きい。自由英作文ではアイデアに意識が向きやすいが、最終的には「単複」「時制」「主語と動詞の一致」などを機械的に確認する習慣が必要になる。

⑥の **recycling trash ... makes both humans and wild animals coexists in the Earth** についても複数の問題がある。まず、“**make A V 原形**”の形では動詞は原形になるため、**coexists** は **coexist** に修正しなければならない。また、「地球の表面上に存在する」という発想になるため、前置詞も **in** ではなく **on** を用いる。

ただし、この答案の問題点は文法・語法だけではない。内容面や構成面にも改善の余地がある。

例えば、②の **without getting any resources of it** は、**without using new resources** などとシンプルに書けば済む内容を、無理に複雑に書こうとしてしまっている点が挙げられる。自由英作文では、知的に書こうと思うあまり、無意識のうちに複雑な書き方を採用し、結果的に不自然な英文を作ってしまう受験生が非常に多い。しかし、実際に評価されやすいのは「難しい英語」ではなく、「シンプルで明確な英語」である。

また、この部分では **it** の指示対象も曖昧であり、さらに旧情報である **it** が文末に置かれているため、情報の流れも悪くなっている。英語では、旧情報（すでに述べられた情報）は文の前半に、新情報（初めて述べられる情報）は文の後半に置く方が自然である。こうした「情報の流れ」を意識できるかどうかで、英文の読みやすさは大きく変わる。

さらに、②～③の内容もやや抽象的である。「新しい資源を使わずに済む」→「自然破壊が減る」という流れ自体は理解できるが、「森林伐採を減らせる」「石油消費を抑えられる」など、具体例が一つ入るだけでも説得力はかなり増したはずである。現状だと **resources** という語が抽象的に浮いてしまっており、論理自体は成立しているものの、読み手の頭に情景が浮かびにくい。

それから、⑤の **increase people's attention on protecting the environment** も意味としては理解できるが、「なぜリサイクルが環境保護意識の向上につながるのか」という説明が不足しているため、やや飛躍感がある。英作文では、「言いたいこと」を並べるだけでは不十分であり、「なぜそう言えるのか」を一步踏み込んで示す必要がある。例えば、“**people will think more seriously about environmental problems through recycling activities**” のよ

# 強者の戦略

うに、「リサイクルという行為そのものが環境問題への意識を高める」という因果関係まで示せると、論理の密度は大きく向上する。

最後の⑥については、「人間と野生動物の共存」という発想自体は悪くない。むしろ、視野を広げようとしている点は評価できる。ただし、本文では「ごみ削減」や「資源節約」が中心だったにもかかわらず、最後に突然「人類と野生動物の共存」という地球規模の話へ飛躍しているため、結論がやや浮いて見えてしまっている。もちろん、英作文では最後に視野を広げること自体は有効である。しかし、その場合でも、直前まで述べていた内容との接続を丁寧にする必要がある。例えば、“recycling trash would help protect the environment for both humans and wild animals.”程度に留めた方が、論旨との一貫性は高かっただろう。

総じて、この答案は論理構成が比較的しっかりしている一方で、「根拠の具体性」と「論理的な接続の丁寧さ」にはまだ課題が残る答案である。ただし、これは裏を返せば、「何を書けばよいかわからない」タイプではなく、「書きたい内容はあるが、それを十分な精度で言語化し切れていない」タイプの答案だとも言える。だからこそ、文法・語法の修正だけで終わらず、「本当にその因果関係は自然か」「前の文と次の文はきちんと繋がっているか」「もっとシンプルに表現できないか」を意識しながら書き直していくことが重要である。

## 添削後の答案

Recycling trash is one effective way to make the world a better place to live in. First, recycling allows people to reuse materials such as paper, plastic, and metal instead of using new resources. As a result, we can reduce environmental destruction caused by cutting down trees and using large amounts of fossil fuels to produce new products. Second, recycling reduces waste and decreases plastic pollution in the ocean. This protects sea animals and keeps the environment clean. For these reasons, recycling trash can play an important role in protecting the environment and making the world more sustainable. (98 words)

ごみをリサイクルすることは、世界をより住みやすい場所にする効果的な方法の一つである。第一に、リサイクルによって、人々は紙・プラスチック・金属などの材料を、新たな資源を使う代わりに再利用できる。その結果、新しい製品を作るために木を伐採したり、大量の化石燃料を使用したりすることで生じる環境破壊を減らすことができる。第二に、リサイクルはごみを減らし、海のプラスチック汚染を減少させる。これは海の生物を守り、環境を清潔に保つことにつながる。これらの理由から、ごみのリサイクルは、環境を守り、世界をより持続可能なものにする上で重要な役割を果たすことができる。

# 強者の戦略

## 【最後に】

ここまで見てきたように、自由英作文において評価されるかどうかは、内容の斬新さそのものではなく、

- ・文法的に正確であること
- ・論理的に一貫していること
- ・英語として自然な言い回しになっていること

の三点をどれだけ安定して満たせるかにかかっている。その意味で、自由英作文は決して「自由」ではない。むしろ、限られた語彙・構文・論理の中で、いかに誤解なく、自然に、自分の考えを伝えられるかが問われる「不自由英作文」として捉える方が実態に近い。

だからこそ、英作文では「難しく書こう」とする必要はない。むしろ重要なのは、「自分が確実に使いこなせる表現」を用いて、論理を一つ一つ丁寧に繋げていくことである。また、良い英文に触れた際には、それを単に「読む」で終わらせるのではなく、「自分でも使える形」で蓄積していく姿勢が不可欠になる。英作文はゼロから英文を創作する作業ではない。良質な英文の型や表現を吸収し、それを自分の答案の中で再現していく、いわば「英借文」の発想が重要なのである。

英作文の力は、自由に書くことで伸びるものではない。不自由な条件の中で、「より自然か」「より論理的か」「より誤解なく伝わるか」を突き詰めていく過程の中でこそ、確実に磨かれていく。そして、難関大レベルの英作文で最終的に問われるのも、結局はこの精度なのである。